

オンライン交流会を通じた学生の気づき

— 日本と中国の大学による実践をもとに —

Student Awareness through Online Exchange

— Based on University Practices in Japan and China —

経営学部現代経営学科

片上 摩紀

KATAKAMI, Maki

Department of Contemporary Business

Faculty of Business Administration

広東外語外貿大学日語語言文化学院

細井 駿吾

HOSOI, Shungo

Guangdong University of Foreign Studies

Faculty of Japanese Language and Culture

要旨：新型コロナの影響を受け、学生たちは異文化に触れる機会が減り、留学する機会がなくなってしまった。そこで、本稿では、コロナ禍における、新しい国際交流のありかたとして、日本と中国の大学生間のオンライン国際交流を実施し、その成果について報告する。オンライン交流会後のアンケート結果によると、多くの学生にとって言語や異文化に関する気づきがあり、異文化理解を深めることができた。その結果、オンライン国際交流会の満足度も非常に高かった。しかし、今回のオンライン交流会では、深い異文化理解、人間関係の構築には不十分であったため、今後の課題は異文化理解、人間関係の構築に向けたオンライン交流会のあり方を検討することである。

キーワード：オンライン、国際交流会、異文化理解、気づき、コミュニケーション

1. はじめに

以前はどの大学でも交換留学、国際交流が盛んに行われ、外国人とのかかわる機会は多くあった。しかし、文部科学省（2021）の外国人留学生在籍状況調査によると、2020（令和2）年5月1日現在の外国人留学生数は279,597人（対前年比32,617人（10.4%）減）とのことだ。実際、最も留学生数が多かった中国出身の学生も121,845人（対前年比2,591人減）にとどまっている。実際に、日本語を学ぶ中国の学生も新型コロナウイルスの感染拡大後、交換留学の中止、また密を避けるため、交流会の中止が相次ぎ、異文化に触れる機会が減ってしまった。本来であれば、様々な留学生と交流し、異文化に触れる機会があったはずであるが、現在の大学生は、新型コロナウイルスの影響を受け、そのような機会すらない学生もいる。国外で日本語を学習している外国人学生は、日本人との交流がなくなり、日本語を使う機会も減ってきている。

このように、社会が急激に変化する中、オンラインを利用してグローバルな体験を提供する取り組みも多く行われている。宮武（2021）では、海外留学の道が

閉ざされた日本人学生に対し、海外の遠隔授業を提供したところ、学生の満足度は高く、その後の英語学習に変化があったことが述べられている。さらに、小西（2021）では、日本人学生とオーストラリアで日本語を学ぶ大学生がペアを組み、コミュニケーションをとる形式でオンライン国際交流を行った結果、参加者は語学学習面だけではなく、文化面などの新たな学びを得られたことが述べられている。このように、このコロナ禍でオンライン環境が整備され、オンラインでつながる可能性が広がり、新しい交流のあり方が見直されている。

環太平洋大学（以下、本学）には、日本人と留学生が共に学習しているが、他大学はもちろん、海外の大学と交流する機会は多くない。一方、前述の通り、普段の生活では日本語を使う機会がないが、海外の大学で日本語を学ぶ学生も多いため、今回、オンラインを用いた国際交流会を実施した。本稿では、国際交流に満足したか調査するとともに、異文化理解が深まったか、語学学習への意識は変わったか、人間関係は構築されたかも調査し、考察する。

2. 交流会の概要

2.1 交流会実施のねらい

本交流会の実施には、他国の同年代の学生とコミュニケーションをとる機会を提供したいというねらいがある。本学の日本人学生は、留学生と授業を受ける機会があるものの、実際に留学生と交流するチャンスがない学生も多く存在した。また、本学の留学生も地域と連携して異文化を紹介する機会はあるものの、同年代の外国人学生と人間関係を構築する機会がなく、ヨコのつながりが薄いという課題があった。一方、中国の学生は、日本留学をしたい、日本の大学院に進学したいという意志はあるものの、新型コロナウイルスの影響で日本留学が叶わず、また日本からの留学生も中国に来られず学内では普段日本人とかわる機会もない。そのため、オンラインという形で交流会を実施し、コミュニケーションの機会を提供した。交流会のねらいは、交流活動を通して「異文化理解を深めること」「語学学習への意識を高めること」「人間関係を構築すること」である。

2.2 参加学生

交流会に参加した本学の学生は、経営学を専攻する日本人学生6名（以下、JJと表記）、留学生13名（以下、JRと表記）である。中国の大学側の学生（以下、CCと表記）は日本語を専攻する中国人学生12名で、中国側の学生は日本への留学や国内外での大学院進学を目指す学生たちである。

2.3 実施方法

交流会はweb会議ツール（ZOOM）を用いて実施した。交流会の時間は60分で、グループに分かれて決められたテーマでトークを行った。各グループは中国の大学生と日本の大学生がいる12グループである。限られた時間で様々な学生と触れ合うため、1回のグループセッションを10分程度とし、グループのメンバーを変えて、4回実施した。学生が話したい話題で話せるよう、各大学の学生が2つテーマを出し合い、学生主導でテーマを決定した。詳しい流れとテーマは以下の通りである。

- ① はじめのあいさつ・紹介
- ② グループセッション1「流行しているもの」
- ③ グループセッション2「観光スポット」
- ④ グループセッション3「大学生活」
- ⑤ グループセッション4「日本語学習の理由」

⑥ 終わりのあいさつ・記念撮影

司会は日本人学生が務め、各セッションの間に話した内容や感想を尋ねた。

3. アンケート結果

交流会終了後、参加者にアンケートを配布し、回答してもらった。項目は「1. 今回の交流会に参加して良かったと思うか」「2. 異文化への理解が深まったか」「3. 外国語・日本語学習への意識に変化があったか」「4. 他大学の学生と親しくなったと思うか」、そして「5. 自由記述」の5項目で、1～4については、それぞれの項目ごとに選択した理由を記述してもらった。本稿では、満足度、異文化理解度、語学学習への意識変化、人間関係の構築の4項目についてまとめ、報告する。

3.1 満足度

この節では、交流会が良かったかどうかについて述べる。結果は、表1の通り、9割以上の学生が「とてもよかった」「よかった」という答えだった。

表1 この交流会は良かったか

	JJ	JR	CC	合計	%
とてもよかった	5	9	5	19	61.3
よかった	1	3	5	9	29.0
どちらでもない	0	0	2	2	6.5
あまり良くなかった	0	1	0	1	3.2
良くなかった	0	0	0	0	0.0
計	6	13	12	31	100.0

「とてもよかった」と回答した学生の記述結果について述べる。¹⁾

- (3.1) 相手の国ことを詳しく知れたので良かった。現地の人の声はリアルに伝わるので楽しかった。(JJ03)²⁾
- (3.2) 初めての体験でとても楽しかった。やはり、母国の方と話さなければわからないことがあるためとても貴重な体験になった。(JJ04)
- (3.3) 日本語のコミュニケーションの練習をした。楽しく、交流しました。また参加したい。(JR06)
- (3.4) 日本語勉強している中国の学生と話せるチャンスがあって、珍しい機会です。とても良かったです。(JR10)

(3.5) いろんな人と話し合うことができて楽しかったです。皆さんは親切で、交流も盛り上がっていました。日本のこと以外、ベトナムのこともいろいろ勉強になりました。(CC03)

(3.6) まずは日本に生活している学生と話し合うことができます。先生と話し合うことと違って、新しい体験です。(CC04)

「よかった」と回答した学生の記述結果について述べる。

(3.7) 普段かかわることのない生徒と話すことができてよかったです。また、様々な生活を知れました。(JJ05)

(3.8) 他の人と話して、話を聞いて、日本語を練習して、嬉しくなった。私は、中国人とあまり会ってないので、新しい経験だと思う。(JR07)

(3.9) 文化背景が違う人々と会って、話をできることはとても楽しいことでした。そして、自分の語学力を頑張って高めたいですから、交流会はいいと思います。(CC10)

「どちらでもない」と回答した学生の記述結果について述べる。

(3.10) ネットが悪いのです (CC05)

「あまり良くなかった」と回答した学生の記述結果について述べる。

(3.11) 時間が少ないです。話せることが少ないです。時間を増加してください。(JR12)

以上、日本人学生にとっては普段かかわることがない海外に住む学生と交流する貴重な機会と実感できる機会になったと言える。留学生、中国人学生にとっても、交流だけでなく、日本語を使う良い機会にもなり、特に普段教員以外の日本人と触れ合うことがない中国の学生にとっては新たな経験になったことが分かる。「良い経験、交流だった」というアンケート結果からも分かるように、対面での交流でないとしても、オンライン交流は学生にとっても意義があるものであったと言えるだろう。次の交流会に期待している学生もいた。一方で、「どちらでもない」「あまり良くなかった」と答えた学生も交流会自体に対して否定的な考えではなく、交流会の内容や時間に対して指摘しているため、交流会の内容等を改善する必要がある。またネットに関する問題もあった。

3.2 異文化理解度

「異文化への理解が深まりましたか。」という質問に関して、表2の通り、6割以上の学生が「とても深

まった」「深まった」という答えだった。

表2 異文化への理解は深まったか

	JJ	JR	CC	合計	%
とても深まった	5	4	0	9	29.0
深まった	1	3	8	12	38.7
どちらでもない	0	4	2	6	19.4
あまり深まらなかった	0	1	1	2	6.5
深まらなかった	0	1	1	2	6.5
計	6	13	12	31	100.0

「とても深まった」と回答した学生の記述結果について述べる。

(3.12) 異文化理解をさらに大事にしようと思えましたし、中国も素敵南国だと思った。(JJ01)

(3.13) さまざまな考えを持っており、文化の違いを感じた。さらに、私たちでは思い付かないような発想などもあった。(JJ04)

(3.14) それは熱心に説明されているだけでなく、それらの文化から多くの良いことを学ぶからです。(JR04)

「深まった」と回答した学生の記述結果について述べる。

(3.15) 中国の伝統的な食べ物や学校生活などを理解することができました。(JJ05)

(3.16) 中国学生からの説明してもらいましたので、中国とベトナムの文化を深くわかりました。(JR13)

(3.17) いろいろ話して、中国の大学と日本の大学の違っているところが知りました。食堂とか、教室とか、そんなところは違いがあります。(CC02)

(3.18) 外国人と話すことが少ないですから、最初はちょっと緊張しました。しかし、話し合った学生たちはみんなやさしくて、徐々に会話を楽しくなりました。「あ、外国の若い学生も私たちと同じです」と思って、親近感がわいてきました。(CC04)

「どちらでもない」と回答した学生の記述結果について述べる。

(3.19) 時間がすくないので、あまり話せなかった。もし、時間があつたら、深く話したい。(JR02)

(3.20) ただネットで交流会をするから、具体的な違う所はよくわからなかった。(JR05)

「あまり深まらなかった」と回答した学生の記述結果について述べる。

(3.21) あまり異文化について話しません。生活を話しました。大学の生活を話しました。(JR12)

(3.22) 時間が少ないので... (CC01)

「深まらなかった」と回答した学生の記述結果について述べる。

(3.23) 中国の学生たちが日本語や日本のことも分かれますから、よく話しました。異文化とかほとんどないと思いました。(JR09)

(3.24) 楽しい会話が出来ましたが、会話する時間が短くて、今回は向こうか私だけが話してからすぐ終わったこともあります。交流するには時間が足りないんです。(CC06)

以上、日本人学生、日本の留学生、中国の学生共に今までは知らなかったことも、お互いに自分の文化を紹介したり、話をしたりすることによって新しい気づきが得られ、異文化理解が深まったと考えられる。

また、これまでほかの国の学生と話す機会がなかった中国の学生にとっては、文化の違いとともに、「国が違って、似ている」という気づきも持つことができた。「どちらでもない」「あまり深まらなかった」「深まらなかった」と答えた理由として、3.1と同様「時間の短さ」についての指摘があったほか、生活や大学等身近なことを中心に話したため、異文化を感じられるテーマではなかったことが挙げられた。

3.3 語学学習への意識変化

「外国語・日本語学習への意識に変化がありましたか。」という質問に関して、日本人学生は全員「意識の変化があった」と答えた。留学生、中国人学生に関しても、「意識の変化があった」「意識の変化が少しあった」と答える学生が多数であった。

表3 語学学習への意識に変化があったか

	JJ	JP	CC	合計	%
あった	6	6	3	15	48.4
少しあった	0	4	6	10	32.3
どちらでもない	0	2	1	3	9.7
あまりなかった	0	1	0	1	3.2
なかった	0	0	2	2	6.5
計	6	13	12	31	100

「意識に変化があった」と回答した学生の記述結果

について述べる。

(3.25) 中国の方もすごく皆さん日本語がうまくて、とても凄いなと思いました。(JJ01)

(3.26) 日本語以外は難しく学ぶのは苦手だがその国の人と話すときぜひその国の言葉を学んで話せるようになりたいと思った。(JJ04)

(3.27) 中国の学生の日本語コミュニケーションが上手です。日本にいないですが、発音がそんなに綺麗で、感動しました。(JR10)

(3.28) 日本語で自分の考えを十分に表現できないことがあるので、本当に残念です。(JR04)

(3.29) まだ自分の会話能力が足りないことに気付きました。会話を進めるために日本語をうまく話さなければなりませんから、今後は会話の練習に力を入れたいと思います。(CC03)

「意識に変化が少しあった」と回答した学生の記述結果について述べる。

(3.30) 相手は日本に住んでいないのに発音やコミュニケーションはきれいで、驚きました。(JR05)

(3.31) 同じ三年生ですが、日本で留学している人と、日本に留学していない人の日本語レベルはやはり違いがありますね。(CC01)

(3.32) たくさんの単語は学んだが、日常対話に出てくるとわかりません。反応時間が必要です。やはりコミュニケーションの中で使わなければなりません。(CC07)

「どちらでもない」と回答した学生の記述結果について述べる。

(3.33) より多くの日本語を使用しました。リスニングをよくする。日本語の使用に自信があります。(JR12)

(3.34) 日本語を勉強するにはコミュニケーションが必要だと思います。(CC11)

「意識に変化があまりなかった」と回答した学生の記述結果について述べる。

(3.35) 何の外国語を勉強しても、よく頑張らないといけなさと感じた。(JR07)

「意識に変化がなかった」と回答した学生の記述結果について述べる。

(3.36) 日本語、あるいは外国語勉強への意識はずっと同じです。この国の言葉が面白いと思えば、勉強してみます。(CC12)

以上のことから、日本人学生は、交流会を通し、中国人学生の日本語能力の高さに感心していた。また外

国語学習へ興味を持ち始め、外国語学習へのやる気が向上した日本人学生もいた。日本の留学生、中国の学生についても、相手の日本語力を称賛している意見や自分の日本語力について振り返っている意見が多かった。この交流会を通して、日本語学習へのやる気が向上した学生も見られた。「どちらでもない」「変化があまりなかった」「変化がなかった」と答えた学生は、外国語学習に対する考えを既に持っていると考えられる。

3.4 人間関係の構築

「他大学の学生と親しくなったか」については、6割以上の学生が人間関係の深まりを感じていた。特に、日本人学生では顕著であった。

表4 他大学の学生と親しくなったか

	JJ	JP	CC	合計	%
とても親しくなった	4	5	3	12	38.7
親しくなった	1	6	6	13	41.9
どちらでもない	1	1	2	4	12.9
あまり親しくならなかった	0	1	1	2	6.5
親しくならなかった	0	0	0	0	0.0
計	6	13	12	31	100.0

「とても親しくなった」と回答した学生の記述結果について述べる。

- (337) もっと喋りたいと思った。意外とやってみるものだなと思った。よかった。(JJ03)
- (338) 相手を理解する気持ち、何を話そうとしているかなどを考えることにより少し親しくなれたと感じた。(JJ04)
- (339) いろいろなところの友達ができれば、異文化から面白いことをたくさん学べると思いますので、ぜひやりたいと思います。友達が多ければ多いほど、人生はもっと面白くなります。(JR04)
- (340) 皆面白かったですから、いい話がたくさんできました。(JR11)
- (341) 色々なことをシェアして、とても嬉しかったです。(CC04)

「親しくなった」と回答した学生の記述結果について述べる。

- (342) 皆さんとてもフレンドリーで話しやすかった。笑顔が素敵でした。(JJ01)
- (343) ベトナム人も中国人も日本人もたくさんの中

じく悩みがあると思う。(JR07)

- (344) 他の大学の学生は違う国にいても、ちゃんと繋がって、話して、文化を理解して、そして中国のことも教えてくれてありがたいです。(JR08)
- (345) 話がたくさんあって、おなじ目的もあるからです。(JR13)
- (346) みんな親切です。Aさんと相談した時、Aさんは自分の国の状況、自分の大学生活を紹介した。友達のように、シェアしていました。(CC12)

「どちらでもない」と回答した学生の記述結果について述べる。

- (347) やはり、インターネット上なので深く親しみを持つことは難しかったです。(JJ05)
- (348) 時間が短いですから。向こうの話を聞けなかったこともあります。そして、あまり話題に興味がない。(CC06)

「あまり親しくならなかった」と回答した学生の記述結果について述べる。

- (349) 現時点ではまだ友達になれないと思います。もっと時間が必要だと思います。もっと話す時間があれば友達になれると思います。(JR12)
- (350) 時間が少ないので...もっと交流の時間があれば、親しくなれると思います！(CC01)

以上のアンケートの結果から、国籍問わず、交流会を通して、学生たちはお互いの優しさを感じ、オンライン上であっても親しくなれたと感じていることが分かる。一方、国籍問わず、ネット上の問題や交流時間の短さが理由で親しくなれなかったという意見もある。また、選定する話題や親しさを感じるまでに時間がかかるという学生もいた。

4. 考察

調査の結果より、交流活動に満足し、異文化理解という点において、日本人学生にとっては、中国文化という学びと発見を得ることができた。また、日本に住む留学生にとっても、新たな学びはもちろん、お互いの国について紹介していくことを通じて、自文化についても深く理解し、考えるきっかけになったことが分かった。中国に住む学生にとっては、他国の文化が「自分たちとは異なる存在」という認識から「国が違っても同じ存在である」という同じ時間を過ごす仲

間としての気づきも得られ、認識が変化したことが分かる。この結果から、異文化理解が進むことによって新たな自文化への気づきも提供する教育的効果があると言えるだろう。

さらに、園田他（2006）では、日本人が留学生の日本語の授業に参加した後に留学生にラーニング・ジャーナルを書かせるという活動を通して、学習に関する気づきや内省が促され、メタ認知知識が活性化されていったことが述べられている。今回の調査の中でも、交流を通して、(3.26) (3.27) のように、本学の留学生及び中国の留学生が自分の日本語を振り返り、自分の課題を認識し、新たな目標を設定するきっかけとなっていたことから、交流は、刺激を受け、自律的学習を促すことにつながることも分かる。

また、本学の留学生は、地域との交流には慣れているが、同年代の学生との人間関係、つまり、ヨコのつながりに課題があり、中国の学生についても、普段日本語教員以外とは他国の人と人間関係を構築できていなかった。しかし、オンラインかつ短時間ではあっても「トーク」という形式を通じて交流会を実施することによって、親しくなれたと感じ、同じ年代、同じような目的を持つ仲間と人間関係を構築できていたことが分かった。

一方、「時間が短い」ために、異文化への理解は深まらない、友だちにはなれなかったという意見が複数あったため、短時間の一回限りの交流ではなく、定期的に長く継続していけるような交流会のあり方を検討する必要があるだろう。

5. おわりに

本稿では、日本の大学と中国の大学の学生の交流会を実施し、活動を振り返るアンケート調査の結果から、満足度、異文化理解への深まり、語学学習への意識変化、人間関係の構築について考察した。その結果、交流活動を通して、異文化に対する学びがあったほか、客観的に自分の日本語を振り返ることにより、日本語学習への意識変化も見られた。ただし、より深い異文化理解、人間関係の構築には不十分であったため、交流会の定期開催、異文化理解が進むような話題設定を再検討する必要があるだろう。

近年、新型コロナウイルスのために、留学して、実際に留学先の人と触れ合い、文化を体験する機会は減少しているものの、オンライン交流会という新たな交流会のあり方が模索されている。今後も引き続き、継

続的に海外の大学の学生とオンラインというツールで交流を持てるあり方を検討し、これを大学教育に取り入れることで、より学生の異文化理解への視点を養成したい。

(注1) 記述内容の日本語の誤りは、回答者の意図を変えないよう正しく記述し直している。

(注2) () 内のアルファベットは参加者の属性、番号は学生の識別番号である。

参考文献

- 小西正恵 (2021) 「ビデオチャットでのイータンデム・オンライン国際交流におけるコミュニケーションのための協働」『外国語教育メディア学会機関誌』58, pp.43-67
- 園田博文・奥村圭子・内海由美子・黒沢晶子 (2006) 「留学生と日本人学生の交流活動実践から見えてくるもの：「気づき」を通じた異文化間コミュニケーション能力の養成に向けて」『山形大学紀要（教育学）』14 (1), pp.11-33
- 宮武香織 (2021) 「新型コロナウイルス禍での遠隔授業における グローバル体験の効果と可能性について」『九州国際大学国際・経済論集』7, pp.41-54
- 文部科学省 (2021) 「『外国人留学生在籍状況調査』及び『日本人の海外留学者数』等について」
https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/1412692.htm